

## 高大接続改革の概要及び対応について

平成29年10月13日

高等学校課

○文部科学省では、高大接続改革（高校教育、大学教育及び大学入学者選抜）に関する具体的な検討が進められており、本県でも国の動向を注視しつつ、対応を進めているところ。

## 1 「高大接続改革の実施方針等の策定について」概要（平成29年7月13日付け文部科学省公表資料）

## (1) 大学入学共通テスト

大学入試センター試験に代わるものであり、大学入学希望者を対象に、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握することを目的とするもの。

## 【主な内容】

- マーク式問題（英語を除く）に加え、国語と数学で記述式問題を実施
- 英語における民間資格・検定試験の活用
  - ・一般の資格・検定試験のうち、必要な水準及び要件を満たしているものを大学入試センターが認定し、その試験結果・段階別成績を大学に提供する。
  - ・試験は、高校3年の4月～12月の間の2回まで受験できる。

## &lt;資格・検定試験の例&gt;

- ・英検（日本英語検定協会）
- ・GTEC（ベネッセコーポレーション）
- ・TOEFL（ETS日本事務局）
- ・TOEIC（国際ビジネスコミュニケーション協会）等

- ・制度の大幅な変更による受検者・高校・大学への影響を考慮し、平成35年度までは共通テストも実施し、各大学の判断で共通テストと認定試験のいずれか、または双方を選択利用することが可能とする。

## 【今後のスケジュール】

平成29年度	H29.11 試行調査（プレテスト）の実施（延べ190,600人） H30.2 英語及び受験上の配慮の在り方に関して検証実施
平成30年度	試行調査（プレテスト）の実施
平成31年度	「実施大綱」の策定・公表 確認のための試行調査（プレテスト）の実施
平成32年度～	実施（H33年度大学入試から） ※現在の中学3年生から受験

## 【今後の課題】

- 「英語民間資格・検定試験の活用に係る公平性の担保」
- ・高校3年生時での活用を見据え、高校1・2年生段階から、英語資格・検定試験の受験回数が増えることに伴い、保護者の経済的負担が増加する
  - ・本県で受検会場が設定されていない試験もあり、受検機会の上で、地域間格差が生じる
  - ・特色や難易度が異なる資格・検定試験を用いること、英語のみ段階別評価を導入することとなるが、公平な評価となるか懸念される
- 上記項目については、6月に文部科学省へ要望したところ
- 保護者の経済的負担に対しては、例えば、現在学校単位で受検していないスピーキング能力を測る外部資格・検定試験に対する受検料を県として助成する等県としても対応を検討したい。

## (2) 高校生のための学びの基礎診断

「基礎学力の確実な習得」「高校生の学習意欲の喚起」を図るため、高校における学習成果を測

定するツールの1つとして活用できるよう、国が一定の要件を示し、それに即して民間の試験等を認定する仕組みを創設。

**【今後のスケジュール】**

平成29年度	プレテストの実施
平成30年度	「実施大綱」の策定・公表
平成31年度～	試行実施
平成35年度～	正式実施

**(3) 平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直し（予告）**

- 各大学の入学者選抜でも「学力3要素」を多面的・総合的に評価
  - AO入試・推薦入試
    - 大学教育を受けるために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」も適切に評価
  - 一般入試
    - 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をより積極的に評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料等の積極的な活用
- 調査書や提出書類（推薦書、志願者本人の記載資料）等の改善

**2 これまでの取組状況**

**(1) 組織的な検討体制の整備（「21世紀型学力検討委員会」の開催等）【平成28年度～】**

広く学校現場の理解を進めながら、高大接続改革への対応を推進するため、県内高校管理職、教員等で構成する組織を設置。

組織名称	概要	設置時期	構成員
21世紀型学力検討委員会	高大接続改革に向けた全体総括	平成28年6月	県内高校校長7名
アクティブ・ラーニング研究WG	「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善方策の協議・検討	平成29年2月	県内教員等12名
学力向上WG	大学教育を受けるために必要な学力の定着と向上策の検討	平成29年10月	県内教員等11名
基礎学力向上WG	基礎学力の確実な習得に向けたPDC Aサイクルの構築と具体的な取組について検討	平成29年10月	県内教員等10名

**(2) 授業改革推進に向けた取組【平成24年度～】**

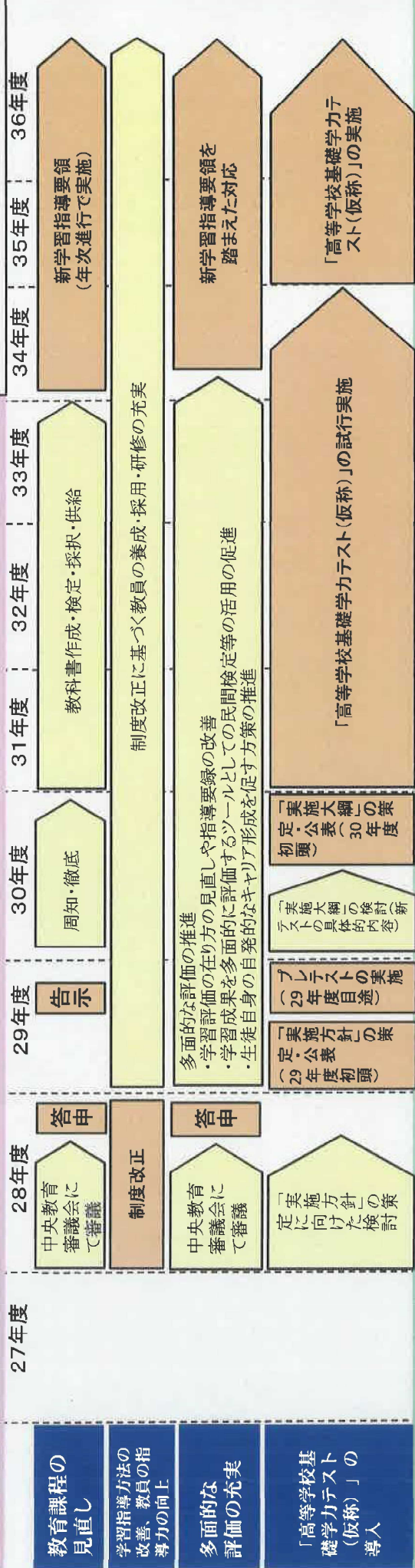
＜主な取組＞

取組	概要
C o R E Fへの教員派遣	協調学習（知識構成型ジグソー法含む）の研究者が所属する東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構（C o R E F）に、将来県教育の中核となる中堅・若手教員を派遣。
21世紀型能力を育むための講師派遣事業	全校を対象として、アクティブ・ラーニング型授業の推進やICT活用など各校が設定したテーマに応じ、外部講師の指導助言を受ける。
学習科学セミナー	「知識構成型ジグソー法（東京大学C o R E Fが推進している授業設計・実践研究の方法）」による授業設計の方法をワークショップ形式等で学習。
学びの文化祭	先進的な取組を進めている高等学校の研究成果の普及を図るため、県内外の教育関係者に広く参加を呼びかけ、授業公開や分科会・シンポジウム等を実施。今年度は、鳥取東高校 11/16、米子高校 10/25。

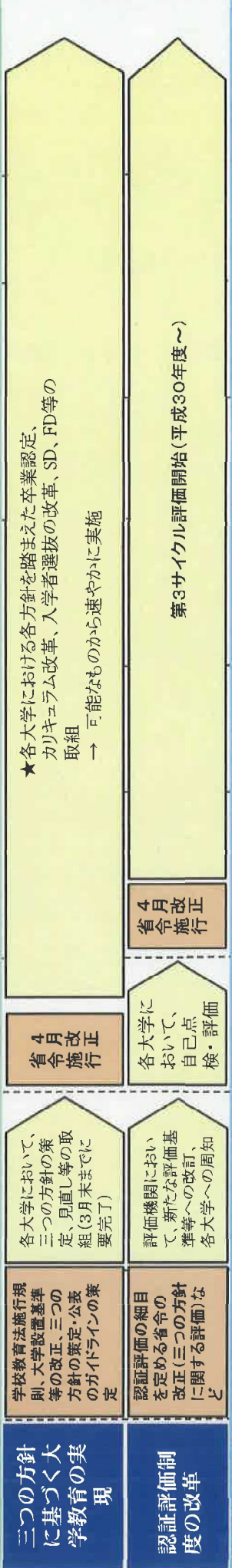
# 高大接続システム改革のスケジュール

高大接続システム改革会議「最終報告」(平成28年3月31日)より

## 【具体的方策】1. 高等学校教育改革



## 【具体的方策】2. 大学教育改革



## 【具体的方策】3. 大学入学選抜改革

